



横浜市立岡村小学校・学校だより R元.11.29 学校ホームページURL <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okamura/>

## 子どもの“きらきら”を見守り、育むトライアングルでありたい

校長 さいとう ともあつ 齋藤 有厚

11月は、3年区音楽会、4年上郷宿泊体験学習、6年市体育大会等が行われ、校外で力を発揮してくれた子どもたち。また、休み時間には、なわとび大会（12月）に向けて学級で立てた目標達成を目指し、励まし合いながら練習に取り組んでいる子どもたち。25日（月）の朝会では、おかむら委員会（児童会の一つ）から、わくわくフェスティバルのスローガン「令和初 全力スマイル みんなハッピー!!」が発表されました。各学級で知恵を絞り、がんばっています。12月7日（土）のフェスティバルには、大きな声援をお願いします。

下の詩は、堀 明子さんが小学4年生のときに綴ったものです。詩集「四季の色」を読む

<p>四年生 十二月一日</p> <p>十二月</p> <p>さあ 十二月がやってきた 楽しい月だ 十二月は 冬休みもある クリスマスもある けれど なによりも わたしが待つものは 新しい年を待つてねむる時 大みそかの夜</p> <p>新しいきぼうに みちている 「十二月」</p>	<p>11/2（土）、朝日新聞 10/31 で紹介された「堀 明子さんの詩に曲を付けたミニコンサート（藤沢市長久保公園）」に出かけました。会場で両親様とお話しました。明子さんは小学3、4年生のときに家庭学習ノートに詩を綴っていたこと、16歳の時に不慮の事故で亡くなったこと、その翌年に明子さんの詩集「四季の色」を両親様が出版したことなど。お父様が、本校図書室にその1冊を寄贈してくださいました。18日朝会で、岡村っ子に本を紹介しました。子どもたちには、明子さんが詩に込めた自然への慈しみ、家族を始めとする周りの人への温かい眼差し等を感じて欲しいと願います。わくわくフェスティバル当日、明子さんのミニ作品会を計画しています。</p>
---	---

と、小学生らしいテーマ、感性の中に、奥深い慈愛に満ちた心、巧みな言葉づかい・表現に心が動かされます。素晴らしい詩集です。明子さんは、詩を書くことで“きらきら”輝きました。私は、全ての子どもが“きらきら”輝く何かをもっているように思います。それを見守り、気づき、育む教職員でありたいと思います。岡村っ子を豊かに育む、保護者—地域—学校のトライアングル（参画—連携—協働）を大切にしたいと願います。そんなことを再認識したひと時でした。明子さんの詩集、両親様との出会いに感謝です。

### 【保護者様へ】 「お子さんの携帯・スマホの管理・使用状況等の確認・・・（注意喚起）」

大阪市で行方不明となり、栃木県で保護された小学6年女児の事件、スマートフォンによる SNS がきっかけで起きたことが分かりました。本校の昨秋の調査で、携帯・スマホの保有率は、中学年で40%、高学年で80%と分かりました。これほど便利な道具はないというものの、危険と隣合わせの状態です。お子さんの携帯・スマホの管理（使用制限など）、使用状況等の確認等、ご注意ください。